若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 ごきげんちっち

事業名 親子のためのおむつ外しお助け事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 およこぱれいす ちるる

事業名 今の子育てがもっと楽しくなるためのサポート事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部(他団体、地域住民など)との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

- ・子育ての苦勞や楽しさを共感し合える場を提供する大変意義のある活動。
- ・コロナ禍においても対策を徹底し、積極的に事業を進めていた。
- ・今後も継続的な活動により、子育て支援をとおして、地域の皆さんを巻き込んだ大きな輪に広がっていくことを期待する。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 第4みつわ台ハイツ支えあいの会

事業名 地域支え合い活動

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部(他団体、地域住民など)との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

- ・事業の継続のために、若年層を取り込む工夫を期待する。
- ・活動が広がりを見せ、地域に定着されてきていることを感じる。今後も、地域の「つながる場所」として、継続的活動を期待する。
- ・コロナ禍の影響を受け、活動は難しかったと思うが、工夫をして事業に取り組めたと評価したい。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 都賀の台おにぎり倶楽部

事業名 誰もが住み慣れた街で、永く健康に住み続けていくための事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 加曽利貝塚ガイドの会

事業名 縄文紙芝居の作成・公演を通して、幼稚園児・保育園児、障がい者・高齢者が縄文文化に親しみを持ち、加曽利貝塚を中心とした地域史跡を大切にすることを養う事業

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 みんなの里山

事業名 子どもの発達を育て多世代間交流のための自然ふれあい事業～ワクワクを愉しむ～

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 縄文太鼓いにしえ

事業名 復元縄文太鼓の制作・演奏・広報活動 “縄文太鼓いにしえ”

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 NPO法人アワーズ美助っ人クラブ

事業名 ウォーキングで地域づくり

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	B
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	B
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 加曽利貝塚ともに生きるプロジェクト

事業名 加曽利貝塚BAKE DONGURIプロジェクト

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	A
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	A
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	A

特記事項

- ・計画を上回る積極的な活動により、加曽利貝塚をイメージした焼き菓子として、お土産はもとより、地元を含めた皆様が手に取るものとして定着してきていると感じる。
- ・製造過程においても、地域の方や障害のある方と繋がりながら、さまざまな工程を経て多くの方に関わっていただける仕組みを作られたことも評価する。
- ・商品の完成度も高い。
- ・新博物館のオープンに向け、さらなる活動の広がりを期待する。

若葉区地域活性化支援事業 評価シート

団体名 大宮長峰台地サロン

事業名 大宮地区の共助・親和団体作り

No.	評価項目	評価項目の考え方	評価の基準	評価
1	事業の実施状況	実施時期・場所、実施回数、事業規模、費用など、事業が申請時の計画どおりに進められたか。	A: 計画を上回って実施できた B: 計画どおり実施できた C: 計画どおりに実施できなかった	B
2	事業目的の達成度	申請時に掲げた目的が達成されたか。達成に複数年要する目標の場合は、事業の成果が事業目的の達成につながっているか。	A: 達成できた又は達成に十分つながった B: 達成まであと一歩だった 又は達成に多少はつながった C: 達成には不十分だった	A
3	事業成果の有効性	事業の成果は、制度目的である地域課題の解決や地域活性化につながったか。	A: 制度の目的に十分に寄与するものだった B: 制度の目的に多少は寄与するものだった C: 制度の目的に寄与しなかった	B
4	PR活動の積極性	事業への参加者・協力者を増やすとともに、自団体の活動をPRするために積極的な周知が行われたか。	A: 様々な媒体を活用し積極的なPRが行われた B: 小規模ではあるが一定のPRが行われた C: PRはあまり行われなかった	B
5	外部団体との交流	事業の実施をきっかけとして、外部（他団体、地域住民など）との交流が行われ、団体構成員の増加や新たな事業計画の検討など団体の活性化が図られたか。	A: 外部との交流が行われ、団体の活性化につながる具体的な成果があった B: 外部との交流が行われたが、団体の活性化につながる具体的な成果はなかった C: 外部との交流には消極的で、団体活性化のための具体的な成果もなかった	A
6	活動の継続性	事業もしくは団体としての活動の継続・発展に向けた実施団体の動きがあるか。	A: 団体として具体的な計画を立てている B: 団体としての動きが多少ある C: 継続・発展に向けた動きはない	B

特記事項